

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	あいうえおん	公表日	2026年 2月 10日	
環境 ・ 体 制 整 備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	<p>・法令で定められた以上のスペースを確保した環境で支援を行っている。</p> <p>・年齢差や発達段階に応じたプログラムを工夫し、安全に取り組める活動構成をしている。</p> <p>・活動時の導線や配置を工夫し、混雑や事故のリスクを減らす配慮を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況や活動内容を踏まえ、スペースの使い方や配置の見直しを定期的に行う。 ・年齢差のある子どもが同時に活動する場面では、より一層安全配慮を徹底する。 ・定員に対してスペースが適切か、定期的に確認し、必要に応じて調整を検討する。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	利用定員や子どもの状態に応じ、基準を超えた職員配置を設定している。加算要件を満たす体制を整え、理学療法士や保育士、教員等の専門性を備えた職員を配置し、専門的実施支援を行うことで支援の質を高めている。	利用状況や個別支援のニーズに応じて、配置の適正化を定期的に見直すとともに、職員間の役割分担や連携の強化を図り、業務量の偏在を防ぐ体制づくりを進めていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	全室バリアフリー設計としており、障害の特性に応じた移動やがしやすい環境を整備している。日々の予定はホワイトボードおよび各自の予定表に記載し、見通しが持てるよう配慮しているほか、机や床に名札を貼り、居場所が分かりやすい環境づくりを行っている。	視覚支援の内容や掲示方法をさらに工夫し、子ども一人ひとりの理解度に応じた提示方法を検討する。また、生活空間の配置や導線について定期的に見直し、安全で過ごしやすい環境づくりを継続していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	毎日支援後に掃除および消毒を実施し、清潔で衛生的な環境を維持している。清潔さを保つことで、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。	活動に応じた空間の使い分けや整理整頓をさらに進め、より心地よく過ごせる環境づくりを図りたい。また、掃除・消毒の実施状況について記録やチェックを整備し、継続的な維持に努めたい。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	クールダウンが必要な子どもが自ら移動し、落ち着ける場所を確保できる環境を整えている。個別の部屋やスペースを利用できるよう配慮し、子どもの状態に応じた支援が行えるよう工夫している。	個別スペースの利用方法や基準をより明確にし、支援の一貫性を高めたい。また、利用状況を把握し、必要に応じて配置の見直しやスペースの追加を検討するなど、より使いやすい環境づくりを進めたい。
	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	個別支援計画や専門的支援実施計画に沿って支援を行っており、毎日ミーティングで子どもの様子や支援内容を共有し、振り返りを行っている。職員全員が情報共有に参画し、支援の質の向上を図っている。	定期的な振り返りの機会を設け、計画の見直しや支援方針の調整により多くの職員が主体的に参画できるようにしていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	保護者向け評価表の結果を職員で共有し、内容について話し合う機会を設けている。保護者の意向や要望を把握し、支援や運営の改善点として共有している。	共有した意見や要望を具体的な改善策として整理し、業務改善計画に反映できるよう仕組みを強化する。また、改善内容を保護者へフィードバックし、信頼関係の向上につなげていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	毎日ミーティングを行い、職員が意見や気づきを共有できる環境を整えている。子どもの様子や支援内容、運営上の課題について話し合い、支援の質の向上につなげている。	ミーティングで出た意見や課題を、業務改善として具体化するための記録・整理の仕組みを強化したい。定期的な振り返りの機会を設け、改善の成果を確認しながら次の課題につなげていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	外部の見学者や相談員等の受け入れを行い、事業所の支援内容や運営について率直な意見をいたいでいる。外部の視点を取り入れ、職員だけでは気づきにくい点を確認し、改善のヒントとして活用している。	外部評価の内容をより明確に整理し、評価項目や記録方法を整備することで、改善点を具体化する。見学や意見聴取の機会を定期的に設け、改善策を職員間で共有し、業務改善につなげる仕組みを強化する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	内部研修として動画研修を毎月実施し、職員が継続的に学べる機会を確保している。加えて、外部研修にも参加する機会を作り、支援の向上を目指している。	研修で得た学びを支援に定着させるため、研修後の振り返りや共有の時間を設けたい。また、外部研修の内容を職員全体で共有する仕組みを強化し、職員全体の資質向上につなげる。
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	月ごとのテーマを設定し、発達支援の5領域に基づいた支援内容となるようプログラムを立案しています。活動のねらいや達成目標を明確化し、スタッフ間で共有することで支援の質の維持に努めています。また、毎月のプログラム内容をInstagramで公開し、保護者や地域への情報提供を行っています。	Instagramでの公開は行っているが、詳細情報が不足しやすいため、より具体的な活動内容やねらいが伝わるよう、情報提供の充実を図っていく。また、実施後の評価や振り返りを定期的に行い、支援の質の統一化と改善につなげる。	

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	生活状況や発達状況、家庭環境などを多面的に把握するため子ども本人および保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しています。計画はスタッフ全員で共有し、支援の一貫性を保つよう努めています。	子どもの様子や評価について、職員間での認識に差が生じことがあるため、ケース会議や情報共有の機会を増やし、共通理解を深めていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	児童発達支援管理責任者だけでなく、日々支援に関わる職員の気づきや意見を計画作成に反映できるよう、ミーティングや申し込みを通して意見交換を行っている。子ども一人ひとりにとって適切な支援となるよう、共通理解の形成を意識している。	計画作成における職員それぞれの役割が十分に整理されていないため、意見の集約方法や関わり方を明確にすることが今後の課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	計画書はファイルやデータで職員が確認できるようにし、ミーティングや申し込みの場で支援内容や目標を共有している。計画に基づいた一貫した支援が行えるよう努めている。	計画と支援内容の振り返りを定期的に行い、より計画に沿った一貫した支援が提供できるよう改善していく。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	日々の行動観察や支援場面での様子を職員間で共有し、インフォーマルなアセスメントを継続的に行っている。子どもの特性や課題を多面的に捉えるため、標準化されたアセスメントツールについても活用・検討している。	アセスメント結果を計画や支援により効果的に反映させため、評価方法や記録の整理について改善を図っていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	放課後等デイサービス計画の作成にあたっては、放課後等デイサービスガイドラインに示されている「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいを踏まえ、子どもの発達状況や生活状況に応じて必要な支援項目を設定している。その上で、日常の支援場面を想定した具体的な支援内容を計画に反映している。	本人支援を中心とした計画になりやすく、家族支援や地域支援・地域連携、移行支援については十分に反映できていない場合があるため、今後は視点を広げた計画作成を行う必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	月ごとのテーマを設定し、定期的なミーティングや日々の申し込みの中で、子どもの様子や課題を共有し、職員間で意見交換を行なながら活動プログラムの立案を行っている。	立案への関わり方に偏りが生じることがあるため、職員全体で検討できる機会を増やしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	活動プログラムが固定化しないよう、月ごとにテーマを設定し、そのテーマに沿って活動内容を検討している。子どもの興味関心や発達段階に応じて活動を変化させることで、継続的な刺激や学びにつながるよう工夫している。	活動内容にさらに幅を持たせ、テーマをより効果的に活用できるよう努めていく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	放課後等デイサービス計画において、子ども一人ひとりの課題や目標に応じて個別活動と集団活動を設定し、計画に沿った支援が行えるよう配慮している。	支援の効果を振り返りながら、個別・集団活動の設定をより適切に調整していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	毎日ミーティングを実施し、その日に行われる支援内容や子どもの状況、職員の役割分担について確認している。職員間で共通理解を図り、チームで連携した支援を行っている。	毎日ミーティングは行っているが、時間が限られているため、情報共有が十分に行えない場合がある。要点を整理した効率的な打合せが今後の課題である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	支援終了後にその日の支援を振り返り、良かった点や改善が必要な点を職員間で共有している。必要に応じて、次回の支援内容や関わり方の検討につなげている。	気付いた点の共有は行っているものの、評価の視点が職員ごとに異なることがあるため、振り返りの視点を整理していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	日々の支援について、支援記録を毎日必ず記入し、子どもの様子や支援の効果を振り返っている。記録をもとに支援の検証を行い、必要に応じて改善に反映している。	記録内容が簡略化されることがあるため、支援の意図や結果が分かるように記録の質を高めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	児童発達支援管理責任者が中心となり、支援に関わる職員と共にモニタリングを行っている。子どもの状況や保護者の意向を踏まえ、計画の見直しが必要な場合はチームで検討し、適切な見直しを行っている。	見直しの必要性を判断する基準が曖昧になりやすいため、モニタリングの視点や判断基準を整理する必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を踏まえ、生活能力向上、学習支援、社会性の育成、余暇活動を複数組み合わせて支援を行っている。活動内容を工夫し、子どものニーズや特性に応じた支援を実施している。	活動のバランスを意識し、基本活動が計画により明確に反映されるよう改善していく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	まずは簡単な選択から自己選択の機会を設け、徐々に複雑な選択ができるよう支援している。子どもの意思を尊重しながら、自己決定を促す工夫を行っている。	選択肢の提示方法や意思確認の工夫をさらに進め、より主体的な選択ができる支援を行っていく。
関係機関や保	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	会議には、支援に関わる職員の中で子どもの状況を最も把握している指導員や、児童発達支援管理責任者が参加し、支援方針や課題を共有している。関係機関と情報共有を行い、支援の方向性を協議している。	会議内容を職員間で共有し、支援計画に反映する仕組みをより整備していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	関係機関との連携を図るため、サービス担当者会議への参加や、保護者を通じた情報提供、必要に応じた連絡調整を行っている。	医療機関や関係機関との連携が、保護者を介した情報共有にとどまる場合があり、より直接的な連携体制の構築が課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	学校から配布される年間行事予定や月間予定をもとに、下校時刻や学校行事を把握し、支援や送迎計画に反映している。	学校ごとに対応方法や連絡体制が異なるため、職員が戸惑うケースがあり、情報整理が課題となっている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	必要に応じて、保護者の同意のもと、関係機関から情報提供を受け、児童の特性やこれまでの支援経験を把握するよう努めている。また、有効だった支援方法、配慮事項等を整理し、次の進路先に引き継げるよう努めている。	保護者の理解と同意を得ながら、関係機関との情報共有の機会を増やし、切れ目のない支援につながる体制整備を進めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	保護者の同意を得たうえで、必要に応じて移行先事業所からの問い合わせに対応し、支援の継続性が保たれるよう配慮している。また、有効だった支援方法、配慮事項等を整理し、次の進路先に引き継げるよう努めている。	移行時に提供する情報の整理や様式の検討を行い、より円滑な引き継ぎが行える体制づくりを進めていく。

護者との連携	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		必要に応じて、研修会や勉強会等に参加し、専門的な視点からの知識や支援技術の向上を図っている。	児童発達支援センターとの連携方法を整理し、スーパー・バーバイズや研修を計画的に受けられる体制づくりを進めていく必要がある。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	14歳の挑戦の生徒さんとの交流の機会を作ったり、イベントで兄弟の受け入れをおこなった。	学習時間の確保や、休日等の関係から交流の機会を作ることが難しかった。保護者さまのご意見を聞きながら、可能にできる時間設定等を検討していく。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5		協議会を通じた情報共有やネットワークづくりの重要性を理解し、事業運営や支援の質向上に活かしている。協議会からの案内や情報については随時確認し、必要に応じて事業所内で共有している。	協議会への関わりが形式的なものにとどまっている。十分な連携や意見交換には至っていない。
	34 曜日からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		こどもの良い面や成長した点を積極的に伝えるとともに、支援上の課題についても丁寧に説明し、共通理解が持てるよう努めている。	サービス提供記録を作成しているが、保護者が確認する習慣が定着していない。記録の重要性を周知し、保護者が確認しやすい方法を検討していく必要がある。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		家族支援の質を高めるため、スタッフに対してペアレンツ・トレーニングに関する学びの機会を設けた。保護者対応や支援方法の共通理解を図った。日々の支援の中で、家庭での関わり方を意識した声かけや助言ができるよう工夫している。	家族支援プログラムや研修等について、保護者が直接参加できる機会は十分とは言えず、情報提供の方法や機会に課題があると感じている。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時には、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について、保護者に分かりやすい説明を行っている。内容について不明点がないか確認しながら説明するよう心がけている。また、ホームページやインスタグラムを活用し、日々の支援プログラムの様子を発信することで、事業所での取り組みが伝わるよう工夫している。	契約時以外に、改めて内容を振り返る機会が少なく、保護者が必要な情報をいつでも確認できる環境づくりについては、さらに工夫の余地があると感じている。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		放課後等デイサービスの提供にあたっては、こども本人の気持ちや保護者の意向を大切にし、面談や日々の関わりの中で意向を確認する機会を設けている。こどもの最善の利益を優先的に考えながら、支援内容に反映できるよう心がけている。	日々の関わりや面談を通して、こどもや保護者の思いに耳を傾け、安心して気持ちを伝えもらえるよう配慮していく。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		放課後等デイサービス計画を示しながら、保護者と内容を共有し、疑問や不安を確認しつつ説明を行っている。納得いただけたうえで、計画への同意を得ている。	保護者の理解度を確認しながら説明を行うとともに、質問しやすい雰囲気づくりを心がけ、より丁寧な説明と同意取得に努めています。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		家族等からの子育てに関する悩みや相談に対し、状況に応じて丁寧に話を聞き、必要に応じて面談や助言、支援を行っている。	相談内容によっては、より専門的な助言や関係機関との連携が求められる場面もあり、支援の幅を広げていく必要がある。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		父母の会や保護者同士の交流につながる取り組みとして保護者が主体となって行ラサークル活動等の案内や情報提供を行っている。 また、親子やきょうだいでの参加できるイベントを実施し、保護者同士やきょうだい同士が自然に交流できる機会づくりを行った。	今後は、より参加しやすい内容や開催方法を検討するとともに、保護者サークルや交流の場について、継続的な情報提供を行い、交流の機会を広げていきたい。
非常	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		こどもや保護者からの苦情に対して、対応の体制を整備し、苦情の受け付け方法や相談窓口を保護者へ周知している。これまで苦情は多くないが、万が一発生した場合に迅速かつ適切に対応できるよう、職員間で共有し対応手順を確認している。	苦情や相談の受け付け方法について定期的に確認・周知を行い、保護者が安心して意見を伝えられる体制づくりを進めていく。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		写真付きのサービス提供記録やおたよりの発行、インスタグラムの活用などにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に発信している。	情報提供の頻度や形式について、保護者の負担にならないよう配慮しつつ、必要な情報が伝わる工夫をしていく。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報は、支援の提供に必要な範囲に限定して収集し、書類やデータの保管方法を徹底している。職員間で取り扱いルールを共有し、適切に管理している。	個人情報の取り扱いについて保護者に周知しているが、内容の理解を深めるための説明方法や確認の機会を工夫していく。
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもの特性に応じて、言葉だけでなく視覚的な手がかりや具体的な説明を用いながら意思の疎通を図っている。また、保護者に対してても分かりやすい言葉で情報を伝えるよう心がけている。	コミュニケーション支援に関する知識や技術について、職員の学びを深めていく。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	地域に開かれた事業運営の一環として、「14歳の挑戦」の受け入れを行ったり、ボランティアとして地域の中学生との交流の機会を設けている。	地域との関わりは一部にとどまっているが、地域住民との交流の機会をさらに広げていくことが課題である。
非常	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等に関する各種マニュアルを整備し、玄関に掲示することで、職員や家族等がいつでも確認できるようにしている。	マニュアルはいつでも確認できるよう掲示しているものの、保護者が目を通す機会が限られており、内容の理解につながりにくい点が課題である。
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備えた体制を整えている。災害時の対応について職員間で確認を行い、年2回の避難等の訓練を実施している。	BCPの内容を定期的に見直すとともに、災害の種類を想定した避難訓練等を計画的に実施し、非常時の対応力を向上を図っていかたい。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		事前に、服薬の有無やてんかん発作等の状況について保護者から聞き取りを行い、支援時の配慮点として職員間で共有している。	保護者との情報共有を継続し、こどもの状況に応じた配慮を丁寧に行く。
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		日常的な食事提供は行っていないが、イベント等で食べ物を使用する際には、事前に食物アレルギーの有無を再度確認し、安全に配慮した対応を行っている。	食べ物を使用する機会が限られている分、職員間での対応手順の共有を継続していくことが課題である。

時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	安全計画を作成し、安全管理に関するマニュアルを整備するとともに、日々の支援の中で安全を意識した対応を行っている。職員間で情報共有を行いながら、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。	安全計画を作成し、職員間では共有しているが、保護者への周知については十分とは言えず、伝え方や機会の工夫が課題である。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図れるよう、安全計画に基づく取り組み内容を家族等へ周知している。必要に応じて、保護者との情報共有を行い、連携を図っている。	面談やおたより等を活用し、安全計画の内容を保護者へ分かりやすく伝える機会を増やし、家族等との連携を強化していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	ヒヤリハット事例会議を開き、職員間で事例を共有し、再発防止に向けた方策について検討している。共有した内容は今後の支援や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	再発防止策を具体化して実施・振り返りを行うことで、安全管理の向上を図っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	職員が適切な支援を行えるよう、虐待防止に関する研修や情報共有の機会を設けている。職員間で支援のあり方を振り返り、虐待の防止に努めている。	研修を受けるだけでなく、職員間での共有や日常業務への落とし込みができるよう、継続的に取り組んでいく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	身体拘束は原則として行わないが、緊急時等でやむを得ない場合に備え、対応基準や手順を組織で共有している。必要時には保護者へ説明し、同意を得たうえで計画に反映できるようにしている。	今後も身体拘束を極力行わない方針を徹底しつつ、必要時の対応基準や手順の周知、保護者への説明方法の工夫を進めていく。